

名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会

## 第九回会議 次第

日時：令和7年1月24日（金）15：30～

場所：新潟市役所古町ルフル4階403会議室

15：30

---

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告事項

(1) 令和6年能登半島地震による被害への対応について【資料1】

(2) 令和6年度保存整備事業の状況について【資料2】

4. 議事事項

(1) 今後の保存整備事業内容について（非公開）【資料3】

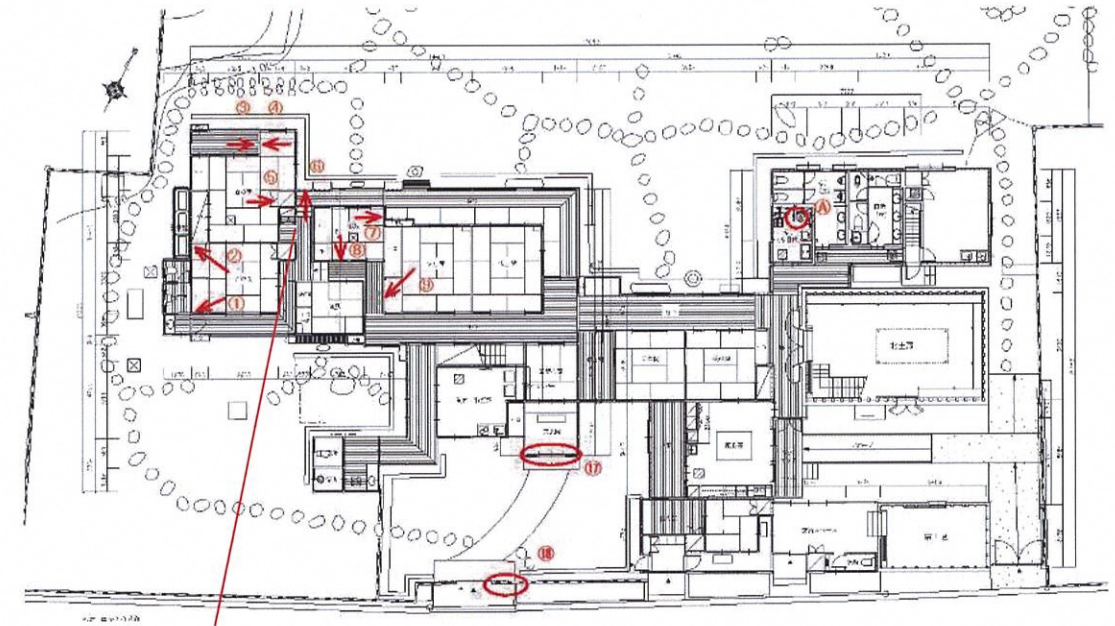
5. その他

6. 閉会



令和6年能登半島地震被害の復旧状況（灯籠）

令和6年能登半島地震被害の復旧状況（主屋壁等・便所） ※現在、実施中

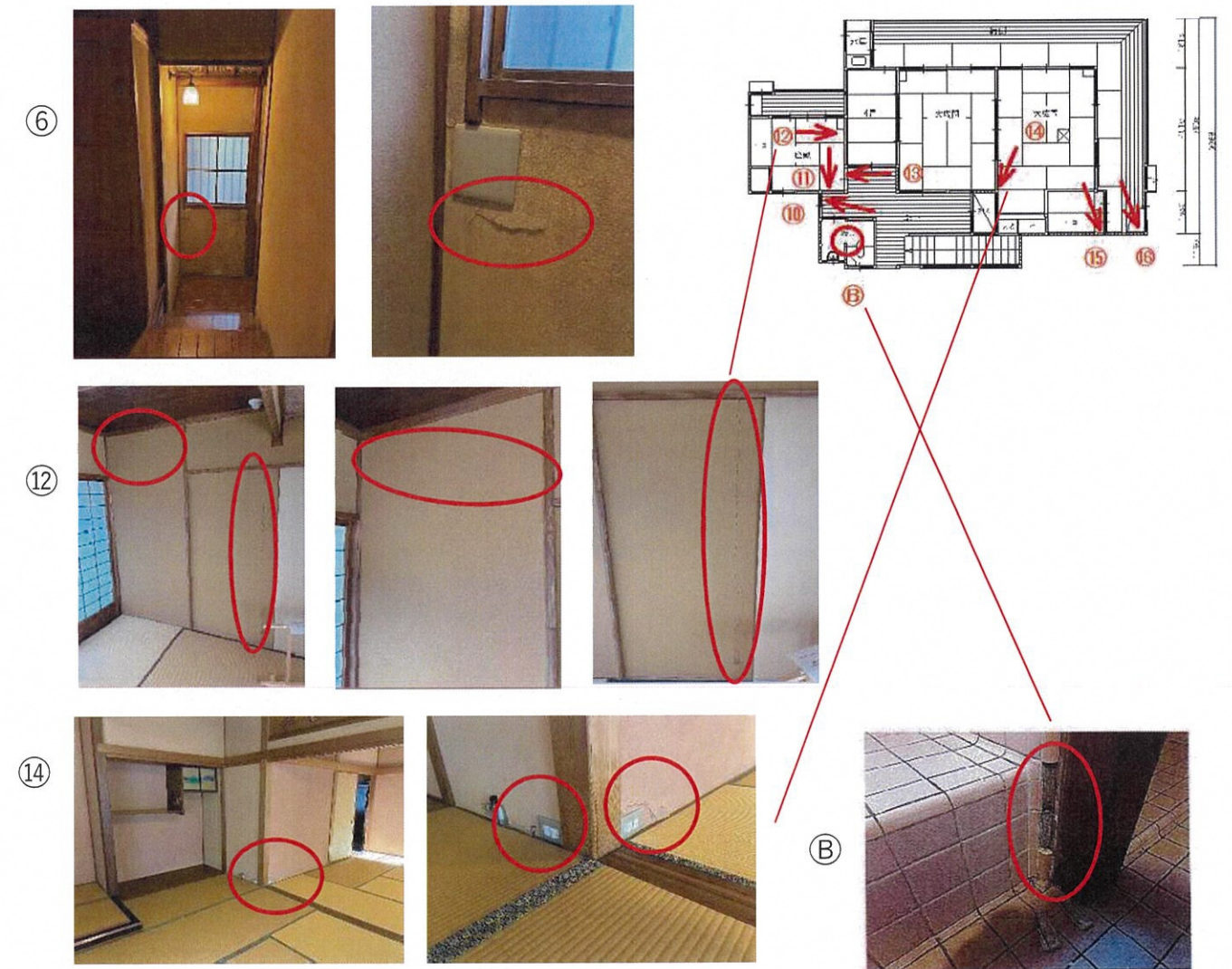


<復旧前>

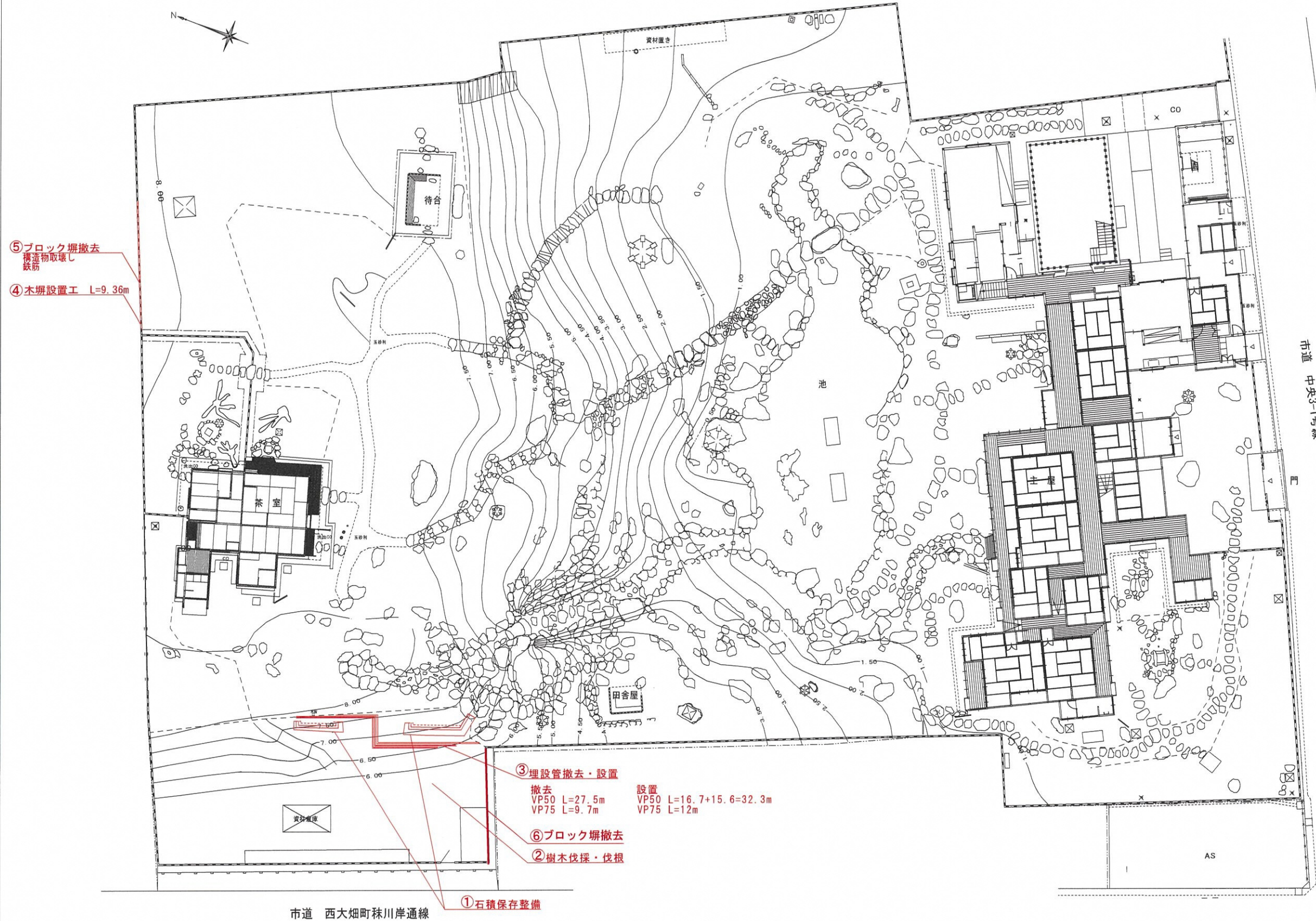
<復旧後>

<復旧前>

<復旧後>







令和6年度		
工事名 名勝旧齋藤氏別邸庭園 庭園整備工事		
計画平面図	縮尺	1/150
位置	新潟市中央区西大畑町 地内	
1		



1. 令和6年度整備工事内容変更の経緯

・石積工事は、当初発注において稲田石を選択していたが、「同質同形状の石材で整備する」整備方針と異なるのではないかと指摘をいただき、石材について再度検討を行うこととなった。

■ 令和4年度委員会（一部抜粋）

整備案	説明
① 保存処理保存	・石造文化財としての保存処理（基質強化剤や撥水材等）を施し、現状の状態のまま維持する案 ※ 風化が激しいため、保存処理の効果が見込めない可能性がある。
② 石積の更新	・既存の石積を取壊し、同質同形状の石材で同位置に整備する案 ※ 当該石積の設えと同様のものは他箇所がない。
③ 埋設保存し ・修景整備 <b>採用案</b>	・既存石積を埋設保存し、その前面に同質同形状（見え掛かりにおける）の石材で修景する案 ※ 既存樹木（アカマツ）と干渉するため、細部の納まりを検討する必要がある。

現地状況



2. 12月27日打合せでの指導

・粟野委員長・松本委員に改めて現地を確認していただいたところ、石材は凝灰岩の様子もなく不明であった。「角礫凝灰岩にも見えるが、博物館等で地質・石材に詳しい方がいれば相談してみてもどうか。入手しやすい石材から検討するように。」と指導いただいた。

・石積工事に伴い、マツを避けて露出する部分の風化の心配が指摘された。「六義園（東京都）護岸補修工事でヤシの筒状（直径30cm程度）の製品を使っており、石材が露出する部分を同じ材料を使って保護してはどうか。植栽済みで修景ができる製品がある。」と指導いただいた。



植生ロール

3. 現在の状況

・石材は、新潟市西蒲区の間瀬や佐渡で見られるハイアロクラスタイト（水冷破碎溶岩）に近いことが分かったが、入手は困難である。施工会社に相談したところ、大谷石（凝灰岩・栃木）・白河石（溶結凝灰岩・福島）・滝ヶ原石（凝灰岩・石川）であれば入手できるということで、現地の石材に色合いが類似し耐久性がよい白河石を用いたいと考えている。寸法（※現状は個体により差異はあるが、およそ長さ800～1000、幅150、奥行き250）は現地の面が細長い形状にできるだけ近づけることで依頼する。

・露出する石積の保護は、施工で深く杭を打つ必要があることから植生ロールの仕様は困難と判断し、同質材料のマットや浸食防止型植生マットで保護する方法を検討している。



植生マット



浸食防止型植生マット



浸食防止型植生マット（経過）



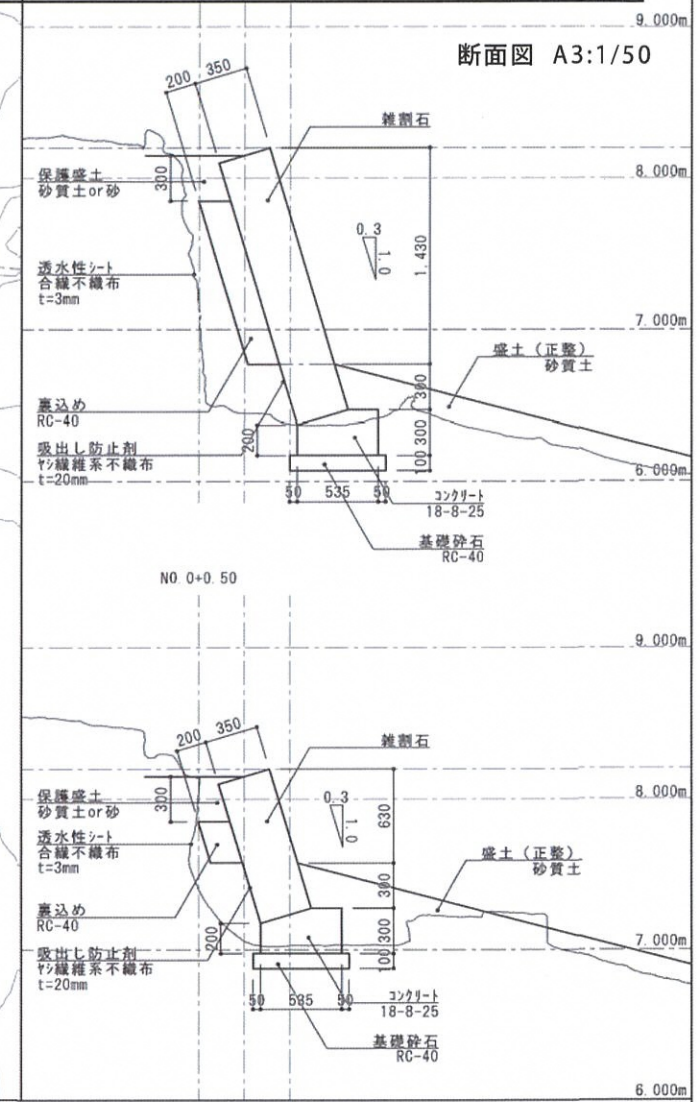
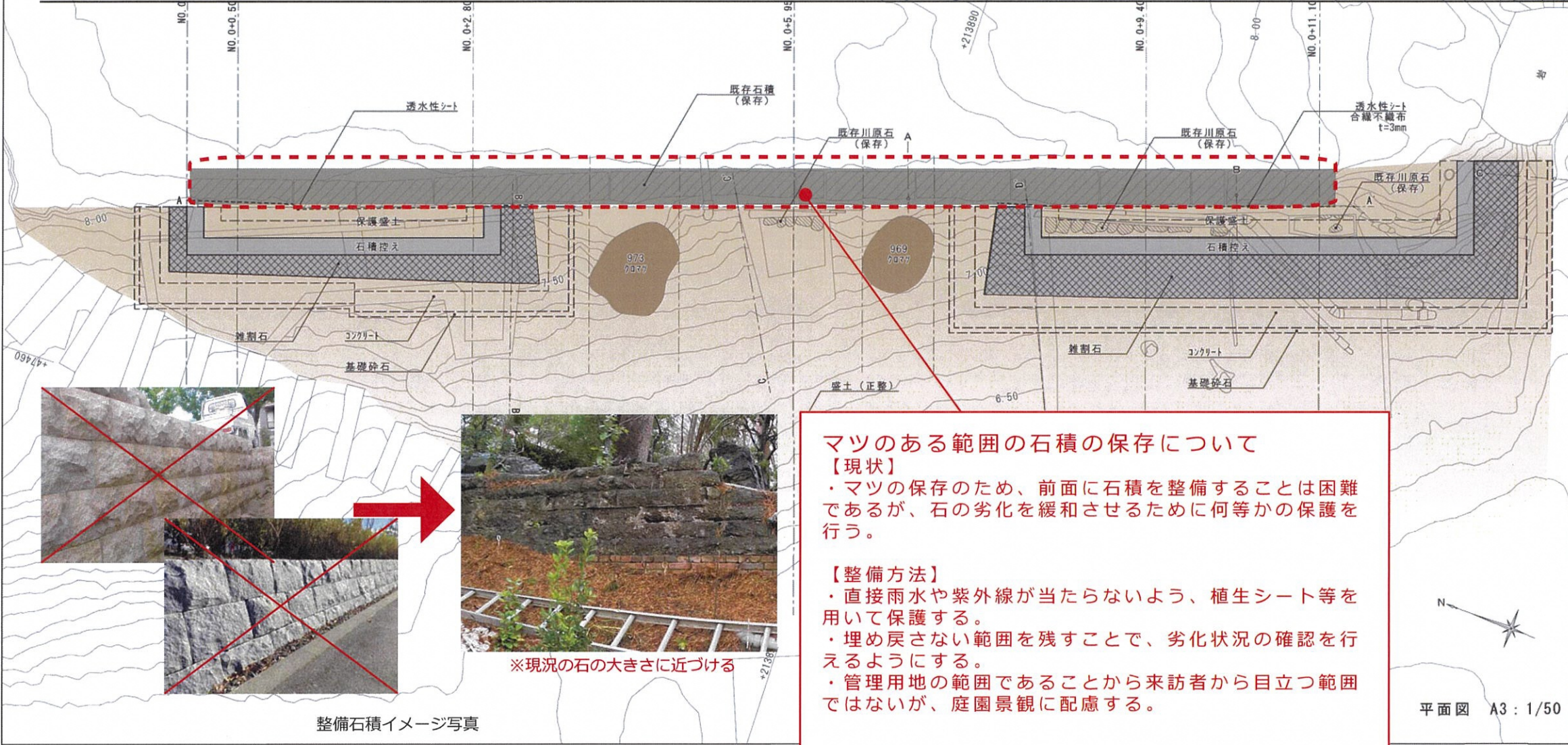
白河石（黒目）※写真は割肌仕上げだが、一面コブ出し仕上げを予定。





令和6年度保存整備事業の状況について

令和6年度 名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会 第九回会議



**マツのある範囲の石積の保存について**

【現状】

- ・マツの保存のため、前面に石積を整備することは困難であるが、石の劣化を緩和させるために何等かの保護を行う。

【整備方法】

- ・直接雨水や紫外線が当たらないよう、植生シート等を用いて保護する。
- ・埋め戻さない範囲を残すことで、劣化状況の確認を行えるようにする。
- ・管理用地の範囲であることから来訪者から目立つ範囲ではないが、庭園景観に配慮する。



整備石積イメージ写真

